「その進路選択、ホントに合っていますか？　～モノづくりは人づくり：早活人材の未来を考える～」

パネルディスカッション



コーディネーター：(一社)アスパシ代表理事　毛受 芳高さん
パネリスト：河合 満さん、古屋 星斗さん、岡 秀之さん(岡崎市小中学校校長会 会長)

最後に、シンポジウムの意義をさらに深めるパネルディスカッションを実施しました。愛知県のキャリア教育の発展に長年携わってきた一般社団法人アスパシ代表理事の毛受さんをコーディネーターに、河合さん、古屋さんに加えて、岡崎市小中学校校長会の会長であり、岡崎市立南中学校の岡校長に参加いただきました。



一般社団法人アスパシ
毛受 芳高 さん

出会いこそが学びの動機をつくります。若いうちにまずはやってみる。インターンシップやアプレンティスシップ（現代版弟子入り制度）を経験するのもいいでしょう。「挑戦してみたら面白くなって、学びのモチベーションが生まれる」という好循環こそが早活人材の育成です。「学び」と「働く」をハイブリッドにしていくのが当たり前の時代に変わってきています。



リクルートワークス研究所
古屋 星斗 さん

親御さんも先生も、本音を言えば、誰も何が正しいのかわからない。できるのは「一緒に考える」ことだけ。親は子どもの夢の審査員ではなく、編集者になる必要があります。子どもが夢中になりすぎて周りが見えなくなっているときに、「とりあえずこれもやった方がいいぞ」と押し付けがましく言える関係が大切だと思います。



トヨタ自動車
河合 満 さん

優秀だからリーダーになれるわけではありません。与えられた立場で、周りの信頼を得るために学び続けることが大切です。トヨタでも「学歴で差をつけるのはおかしい。実力のある人が評価されるべきだ」と変わってきています。子ども達には、小さな目標でいいから自分で決めてどんどん挑戦し、成功体験を積み重ねていってほしいです。



岡崎市小中学校校長会
会長 岡 秀之 さん

中学校二年生の頃に職場体験学習等をして、望ましい職業観をつくることに力を入れています。学校ができるのは情報を与え、体験をする場をつくり、生徒に進路を考えさせることだけ。中学生から少しでも考え、考えた上で選択をしていくことが大切です。それが大学進学であっても、就職であっても、生徒自身の選択を応援していきたいと思っています。

活動のご報告　岡崎市や幸田町を中心に、皆さんのご意見を伺っています。

7/19 「保護者の会みちあんない」主催の勉強会に参加



「不登校でも大丈夫 親にできる関わりと居場所づくり」に参加しました。学校現場での取り組みはもちろん、現状できていない、悩みを持つ保護者の皆さんの支援についても、参加された他の議員関係者含めて考えていきたいと思います。

9/5 「令和8年度 幸田町総合防災訓練」に参加





開始前には田境幸田町議とデンソー消防団の皆さんを激励。消防・警察・自衛隊に加えて、地元小学生も参加しての内容は、地域の防災意識の高まりに必ず寄与すると思います。

10/3 経津主神社（ふつぬし）の秋の大祭に参加



神輿が新調された地元の経津主神社の秋の大祭に参加し、1年間無事に地域をお守りいただいたことに感謝しながら、玉串を奉奠しました。地元の小学生6人による御神楽（おかぐら）奉納も素晴らしく、地域の伝統として今後も引き継いでもらいたいと思います。

8/26 「豊田市高等学校 魅力発見フェスタ」に参加



豊田市市民文化会館で開催された「豊田市高等学校　魅力発見フェスタ」に参加しました。豊田市の高専含めた13校の生徒が、市内の中学生と保護者に各校の魅力を直接PR！オープニングは小ホールが満席になるほどの大盛況でした。

9/19 「アジア競技大会」開会式が開催



待望の「アジア競技大会」開会式が、瑞穂陸上競技場で開催されました。各国選手団の入場、天皇陛下による開会宣言、突然名古屋城が出現してのパフォーマンス、聖火リレー聖火点灯など、あっという間の夢の2時間の式典でした。

10/10 「第5回ワールドフェスティバル」に参加



名古屋栄で開催された「第5回ワールドフェスティバル」に参加。アジア各国はじめ、世界中の方が参加してのお祭りは、愛知県の多文化共生の象徴です。外国人の健全な受入・戦力化を図るためにも、外国人の方が住みやすく、一生懸命働ける環境づくりに努めます。

ご意見などございましたら
下記までご連絡ください。

発行 山口たけし事務所
〒444-2134　岡崎市大樹寺3丁目1-7-105号
TEL：0564-21-6376　FAX：0564-21-2388
E-mail：takeshi-yamaguchi@tmwu.or.jp



お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



公式サイト

◀山口発言の検索画面

◀山口発言動画再生画面

発信者で探す▶山口健で検索

2026.11.10発行

2026年 冬号（11月10日発行）　県政レポート vol.14

「全員活躍社会」の実現を愛知から！

山口 たけし



愛知県議会議員（岡崎市・幸田町選出）
あいち民主県議団（副幹事長）／
農林水産委員会（副委員長）



プロフィール　1968年9月25日京都市生まれ／1992年に京都大学経済学部経済学科を卒業／同年トヨタ自動車に入社し、生産管理部に配属／てんびん座A型／妻と息子2人／趣味はゴルフと足つぼマッサージ、長男と映画鑑賞、次男とラーメン屋巡り、愛車でドライブ

日本で32年ぶりに開催されたアジア競技大会・アジアパラ競技大会が10月24日に閉会しました。マスコミ報道の賛否もありますが、東京オリンピックが350種目、パリオリンピックが325種目に対して、今回実施されたのは、アジア大会が469種目、アジアパラ大会は500種目であり、事故や選手の大きなケガもなく閉会できたのは、大会関係者のご尽力に加えて、ボランティアに汗をかかれた皆さん、選手に直接声援を送っていただいた皆さんのご協力の賜物です。5年後・10年後に今回選手を応援した子ども達の中から、後に続く選手が現われることを楽しみにしつつ、反省や成果を次なる施策に活かしていきたいと思います。

▲公式Instagram　▲facebook

＼アジア競技大会・アジアパラ競技大会の一コマ／



▲トヨタ自動車の近社長とともに



▼ボランティアスタッフの皆さんと東山公園テニスセンターのセンターコートにて

山口たけしが立ち上げた「『モノづくりは人づくり』研究会」主催！

「その進路選択、ホントに合っていますか？
～モノづくりは人づくり：早活人材の未来を考える～」を開催しました。

高卒や専門学校卒の若者が、早期に社会に出て活躍する「早活人材」の可能性と、愛知県のキャリア教育のあり方を考えるシンポジウム「その進路選択、ホントに合っていますか？ ～モノづくりは人づくり：早活人材の未来を考える～」を7月30日（木）に開催しました。



発起人
山口 健（やまぐち たけし）
愛知県議会議員

進路選択のミスマッチを解消し、子どもたちの幸せと産業の未来について、考えや議論を深めていきます



基調講演
河合 満（かわい みつる）
トヨタ自動車(株) アドバイザー
（おやじ：元副社長）

人材育成の本質とモノづくりの醍醐味について講演

学歴なんて関係ない。高い目標に挑み続け、成長を感じることが仕事の醍醐味です



問題提起
古屋 星斗（ふるや しょうと）
リクルートワークス研究所
主任研究員

「大学進学」は割に合うか早活人材の可能性について

18歳からプロの現場で学び、必要に応じてあとから大学に行くなど、早くからキャリア形成を始めることが、価値をもってきています



パネルディスカッション
毛受 芳高（めんじょう よしたか）
（一社）アスパシ代表理事

愛知でキャリア教育を拡げ続ける毛受氏がコーディネート

「学び」と「働く」をハイブリッドにしていく時代。子どもたちの多様な挑戦を応援していきましょう

企業は人材確保に苦しみ、求人が殺到する工科高校が定員割れって何かおかしくないですか？



当シンポジウムには、キャリア教育を担う**学校関係者の皆さん**、高卒の新卒者を採用・育成し、現場の競争力を維持・強化してきた**企業労使の皆さん**、子どもたちの**保護者の皆さん**を会場にお迎えしました。**中面で詳しく紹介します！**

高卒就職人材の重要性を考える

大学進学でホントにいいの？「早活人材」の可能性と愛知県のキャリア教育のあり方を考える

愛知県では18歳の若者の約8割が進学しますが、県内の工科高校の求人倍率は非常に高く、岡崎工科で19.7倍、愛知総合工科では31.1倍に達しています。シンポジウム当日は、進路選択のミスマッチを解消し、子どもたちの幸せと産業の未来の両立について、考えや議論を深めました。





トヨタ自動車 河合 満さん

（元副社長 現アドバイザー）

我々が欲しいのは、常に目標を持っていろんなことに挑戦する人

製造現場一筋から副社長の重責を担われた経験をもとに、人材育成に対する熱い思いをお話いただきました。

トヨタ創業者の豊田喜一郎が「モノをつくるんだから、人をつくらないといけない」とつくったのが、トヨタ技能者養成所。私はその18期生。現場実習として仕事もしましたが、クラブや修学旅行、35キロ競歩などもあり、心技体を鍛えられました。現場では、先輩たちが厳しく愛情を持って育ててくれましたが、自分で覚えないと仕事はできない。「見ていろ、俺と同じようにやれ」ですからね。本当に良い経験をしました。

我々が欲しいのは「常に目標を持っていろんなことに挑戦する人」です。向上心と探求心を持ち、高校や大学でこんなことを学んで、こんな仕事に興味があるからこんなことをしたいと明確な目標を持つ人。学校や学歴は関係ありません。「こんなことをやりたいから入社したい」と意欲を持つ、中途入社の人も多くなっています。

以前はトヨタ自動車の中で、大学・大学院卒の「事技職」と高卒・学園卒の「技能職」は完全に分かれていて、「技能職」は次長より偉くなれないと決まっていました。私が2005年に初めて部長になった時、次長級は25名でした。2026年には、本部長（執行役員）1名、工場長（副含む）が5名、部長7名、次長級72名に。今ではローテーションをどんどん実施しており、領域の垣根は薄くなっています。

技能職の仕事は、単純だと言われることもありますが、そうではない。不良が出る、設備が故障する。不良を出さないためにどうしたらいいか、故障しないためにはどうすればいいか。周りに聞いたり、自分で勉強したり、繰り返しやり続けて、無駄を徹底的に省くことを考えます。挑戦に失敗はありません。できなかった時は課題が出ただけなので、その課題にまた挑戦すればいいんです。仕事も遊びも、常に挑戦する。目標に少しでも近づき喜びや成長を感じられることが、人生においてとても大切なことだと思っています。

プロフィール 中学卒業後にトヨタ自動車工業の技能訓練生として入社し、叩き上げで副社長まで上り詰めた「現場の神様」。高卒・現場叩き上げの象徴的存在として、現場の技術継承と人材育成の情熱を今も熱く語り続けています。

1948年 愛知県豊田市生まれ
1963年 トヨタ自動車トヨタ技能者養成所入所（現在の学園）
1966年 本社工場 配属　2008年 本社工場副工場長
2015年 専務役員　2017年 副社長工場統括
2019年 副社長工場統括 総務・人事本部
2020年 執行役員　2021年 おやじ・エクゼクティブフェロー



リクルートワークス研究所 主任研究員 古屋 星斗さん

人間はいつ学ぶべきか、どこで学ぶのか、働いた後に学び直せるか

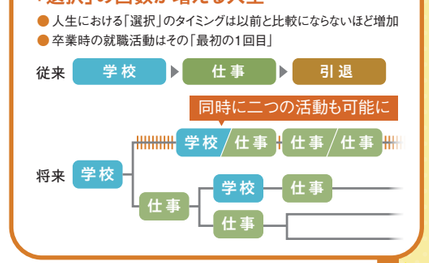
高卒就職や大学進学、企業が直面する採用面の課題、そして早くからキャリア形成を始める「早活人材」の考え方についてお話をいただきました。

今の日本は決して景気が良くないにもかかわらず、少子高齢化の影響で現役世代の減少が進み、人手が足りていません。結果、大手企業は中途採用を増やし、高校卒も大学卒も初任給が急速に増加して、若者の奪い合いが起きています。高卒採用を実施する企業は、15年で1.5倍になりました。

専門的技術的職業に就職する高校卒と大学卒の年収増加幅を比較すると、2020年は歴然とした差がありましたが、今は縮まってきています。また、大学進学には多額の学費と4年間働かない機会損失コストがありますが、そのコストを回収するのに15年以上かかるようになってきています。

そんな中で私が注目するのは「早活人材」という考え方です。早く就職する人ではなく、早くキャリア形成を始める人。「自分はこの領域で頑張っていくんだ」と覚悟を決めた人を指しています。18歳から現場で学び、必要があれば大学に進学する。若いうちから現場で働いて経験を積み、プロフェッショナルへと成長する人材の価値は、今の時代どんどん上がってきています。

労働市場が急激な変化を見せつつある中で、これから起こるのは「人間はいつ学ぶべきか、そしてどこで学ぶのか、また働いた後に学び直せるか」ということです。学びと仕事の順番、人生の在り方自体を考えるときなのではないかと思っています。



プロフィール 岐阜県多治見市出身。2011年一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻修了後、経済産業省入省。産業人材政策、投資ファンド立ち上げ、福島復興、政府成長戦略立案に従事。経済産業政策局経済産業政策課課長補佐（成長戦略担当）より転職し現職。労働市場分析、キャリア形成研究が専門。

【著作】
「ゆるい職場ー若者の不安の知られざる理由」（中央公論新社,2022）
「なぜ若手を育てるのは今、こんなに難しいのか」(日本経済新聞出版,2023)
「あの若手はどうして辞めないのか」（朝日新聞出版,2026.7）ほか



愛知県教育委員会 教育部長 加納 澄江さん

一人ひとりの個性や能力、可能性を拡げて伸ばす教育が大切



「産業イノベーション人材育成等に関する高等学校教育改革の方向性」についてお話いただきました。

今、高校教育改革に関して、国で非常に大きな動きがあります。経産省が示した2040年の就業構造推計で、職種別では、事務職は400万人以上が余剰に。専門職や現場人材は不足することが予想されています。学歴別では、高卒普通科、大卒・院卒の文系が余剰になり、高卒工業科と高専卒、大卒・院卒の理系が不足すると言われています。

社会の変化を見据え、国は「N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想」を掲げました。子どもたち一人ひとりが、多様な個性や能力を生かして「自ら問いを立てる力」や「他者とともに価値を創り出す力」を身に付ける必要があり、一人ひとりの個性や能力、可能性を拡げて伸ばす教育が非常に大切になってきています。

愛知県では、本年度中に県の『高等学校教育改革実行計画』を策定することに加え、工科高校や農業学校を「アドバンストエッセンシャルワーカー」育成拠点とし、普通科高校での理数系人材育成を強化。多様な学習ニーズに対応した教育機会を確保するなど、取り組みを進めています。

愛知県教育委員会の高校教育改革に関する今後の取組

① 2026年度中に、愛知県の「高等学校教育改革実行計画」を策定
② 改革先導拠点校による取組（予定）
…アドバンストエッセンシャルワーカー等育成支援、理数系人材育成、多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

山口たけしの思い



今回のシンポジウムは、登壇者の皆さんはもちろん、岡崎市の安藤教育長をはじめ、さまざまな方のご理解とご協力により開催できました。その結果、三河地域を中心に、問題意識を共有したい学校教育関係者約150人に加えて、ともに課題解決の方策を考えたい企業・労組関係者約150人が一堂に会し、立場の違いを踏まえた上で、愛知で生まれ育つ子ども達にとって、より良いキャリア教育を考える必要性が共有できたと確信しています。今後、成果に結びつけていくためにも、従来の枠組みをこえた学校現場と企業労使の連携が不可欠であり、行政課題として保護者の皆さんも巻き込みながら、あらゆる産業を支える現場人材の確保・育成のために知恵を絞って取り組んでいきたいと思います。